作成日：　　2010 年 10 月 7 日
改訂日(V.6C)：2023 年 8 月 7 日

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：　**日農アグロスリン水和剤**

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名：　日本農薬株式会社
住所：　〒104-8386 東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 8 号 京橋ＯＭビル
担当部門：　環境安全・品質保証部
TEL. 050-3490-3494
e-mail: kankyouanzen@nichino.co.jp
緊急連絡電話番号：(平日)　050-3490-3494 (環境安全・品質保証部)
(休日、夜間)　04-2929-8961 (ＡＬＳＯＫ)
推奨用途及び使用上の制限：農薬(殺虫剤)、農薬登録の範囲外の使用は不可
ＳＤＳ番号：　５０１－２３(Ｍ１０－１７)

## 2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

| | | |
|---|---|---|
| 健康有害性 | 急性毒性 (経口) | 区分４ |
| | 生殖細胞変異原性 | 区分２ |
| | 発がん性 | 区分１Ａ |
| | 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | 区分１ (神経系) |
| | 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | 区分１ (免疫系, 腎臓, 呼吸器系) |
| | 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | 区分２ (肺) |
| 環境有害性 | 水生環境有害性　短期(急性) | 区分１ |
| | 水生環境有害性　長期(長期間) | 区分１ |

上記で記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」か「分類できない」。

ＧＨＳラベル要素

絵表示



注意喚起語　危険

危険有害性情報
飲み込むと有害
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
臓器(神経系)の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(免疫系、腎臓、呼吸器系)の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(肺)の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

■使用前に取扱説明書を入手すること。
■全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
■粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
■この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
■環境への放出を避けること。
■取り扱い後は、顔、手、および露出した皮膚をすべてよく洗うこと。
■保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

■漏出物を回収すること。
■飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。
■ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡して、の診察/手当てを受けること。
■特別な処置が必要である（「4. 応急措置」参照）。

【保管】

■施錠して保管すること。

【廃棄】

■国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

重要な徴候及び想定される非常事態の概要：

粉じん爆発を起こすおそれがある。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　混合物

有効成分

化学名（一般名）(*RS*)-α-シアノ-3-フェノキシベンジル=(1*RS*,3*RS*)-(1*RS*,3*SR*)-3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート（シペルメトリン）

| 成分名称 | CAS 番号 | 濃度(%) | 化審法番号 | 安衛法番号 |
|---|---|---|---|---|
| シペルメトリン | 52315-07-8 | 6.0 | 該当しない | 4-(7)-992 |
| 鉱物質微粉、界面活性剤 等 | 非開示 | 94.0 | 非開示 | 非開示 |

危険有害成分

| 化学名 | CAS 番号 | 含有量(%) |
|---|---|---|
| シペルメトリン*1 | 52315-07-8 | 6.0 |
| ジメチル（1-フェニルエチル）ベンゼン*2 | 40766-31-2 | 9.2 |
| 結晶質シリカ | 14808-60-7 | 17 |

＊1：化学物質排出把握管理促進法　第 2 種指定化学物質

＊2：化学物質排出把握管理促進法　第 1 種指定化学物質

## 4. 応急措置

吸入した場合：　空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。
呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
鼻、口、喉を水でゆすぐ。
体を毛布などで覆い、保温する。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。

もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。
経過観察をする必要がある。

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
直ちに汚染された服と靴を取り除く/脱ぐ。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合: 眼を擦ってはならない。
まぶたを開いた状態に保つ。
できるだけ早く水で洗い始め、数分間注意深く洗う。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
必要があれば医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。
嘔吐の誘発を試みる。
意識がないときや痙攣を起こしているときは、吐かせてはならない。
意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。
空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。
体を毛布などで覆い、保温する。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。
もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。
呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。
経過観察をする必要がある。

応急措置をする者の保護:
救助の際は保護具を着用する（「８．ばく露防止及び保護措置」を参照）。
本製品が生殖細胞変異原性物質／発がん性物質を含むことに注意する。

医師に対する特別な注意事項:
本剤による中毒の治療法としては動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効との報告がある。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤: 噴霧水、水、乾燥砂

使ってはならない消火剤:
棒状水

特有の危険有害性: 火災の熱などによる濃縮によって爆発するおそれがある。
加熱されたり火災に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがある。
外部火災の熱によって、爆発的に分解するおそれがある。
爆発または延焼中に本製品の未燃焼の粉体が舞い上げられると二次爆発のおそれがある。
混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）に留意して、適切な冷却手段にて容器を冷却する。
燃焼ガスおよび/または分解ガスには、刺激性、腐食性および/または毒性のガスが含まれるおそれがある。
火災の際は有害なガス（「10. 安定性及び反応性」参照）や金属酸化物などのヒュームが発生し、めまいや窒息や健康被害を引き起こすおそれがある。
消火水中に有害物が含まれ、環境や生物に影響を与えることがある。
消火しても充分冷却されていないと、再度発火するおそれがある。

特有の消火方法: 消火活動中に過熱された容器が爆発するおそれがある場合には退避する。
全ての方向に爆発の被害を被らないような適切な避難距離を取る。
燃え広がった場合は、人が近づいて消火してはならない。爆発のおそれがある。
積荷が熱にさらされている場合は、積荷を積載した車両は移動してはならない。
火災の過熱によって、容器が爆発するおそれがある場合は、安全な距離を確保して消火活動を行う。
風上から作業する。
安全な場所から消火する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
大規模火災で大量にある場合 : 区域より退避させ、十分に離れた距離から消火すること。
周辺の他の未燃可燃物の防護:可能かつ安全ならば、容器を移動させるか、散水などで冷却する。
外部火災からの製品防護 : 可能かつ必要がある場合は、製品の入った容器を安全な場所に移動させ、容器または周辺設備を水等で冷却する。
容器の移動の際は、衝撃や摩擦を与えないこと。
消火に用いた水は堰を作って囲い、環境に配慮した上で廃棄する。
物質がちらばらないようにする。
消火を行う者の保護: 各国、地域で規定された標準の全身保護衣および空気式呼吸器(SCBA)を着用する。
防護面、ヘルメット、手袋を含む耐炎性防火服を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

人体に対する注意事項

火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護具を着用する。
適切な保護具（「８．ばく露防止及び保護措置」参照）を着用して、眼や皮膚への粉じんの付着または粉じんを吸入しないようにする。

緊急処置 適切ならば、散水して飛散を防止する。
風下の人を退避させ、風上から作業する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
周辺環境に、影響（健康被害を含む）を及ぼすおそれがある場合は、周辺の居住者に警告する。
付近の着火源となるものを、直ちに取り除く。
大きな安全地帯を設定する。

二次災害の防止策

全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。
粉じん雲の発生や粉じんの堆積を防ぐ。
適切な消火剤を準備する（「5. 火災時の措置」を参照）。
排水溝、下水溝、地下室、くぼ地あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
風により飛散が拡大する場合は防水シートで覆う。

環境に対する注意事項:

環境中に放出しないこと。
漏出物が水系（河川や下水など）に流入して環境への影響を起こさないように、堤を作って堰止める。

封じ込め及び浄化の方法及び機材:

粉じんの飛散を防ぐため、水にて湿らせておくこと。
速やかに回収する。
適切ならば飛散防止のためにまず湿らせる。

水系(河川や下水など)へ拡散しないように､速やかに堤を作って堰止め、水で湿らせて回収し廃棄する。
漏出物を掃き集めて密閉式の容器に回収し、安全な場所に移す。
全量を回収する。
全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。
漏洩または漏出物を回収する場合は、専門家のアドバイスを求める。
回収時には粉じん防爆型の電気設備および照明設備を使用し容器は接地する。
飛散防止のため微粉の捕集には粉じん防爆タイプの集じん機を使用する。
残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。
回収作業は、安全取扱い（｢7. 取扱い及び保管上の注意」参照）措置をしたうえで実施すること。
廃棄方法は｢13. 廃棄上の注意」を参照。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 全ての着火源を取り除く。
粉じん雲の発生や粉じんの堆積を防ぐ。
静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。
電気的絶縁性が高い物質を設備や容器類等に使用しないこと(プラスチックライニングや袋、フィルター等)。
防爆型の【電気機器/換気装置/照明機器/機器】を使用すること。
不活性ガス（窒素など）置換や爆発放散設備の設置等の粉じん爆発対策を講じること。
上述した対策を講じることが困難な場合はコンサルタント会社等の専門家に相談すること。
粉じんが発生する場所では､ばく露を防ぐため､密閉系で取り扱うか集じん装置を使用する。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
設備対策を行い、保護具を着用する（｢８. ばく露防止及び保護措置」参照)。
粉じんを吸入しないこと。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
眼、皮膚、衣服への接触を避ける。
休憩場所には、汚染された保護具を持ち込まないこと。
皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に適切な保護具を着用する。
可能な限り、使い捨ての保護衣を着用する。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護衣は安全な方法で廃棄すること。

局所排気, 全体換気: 局所排気および/または全体換気を行う。

安全取扱注意事項: 混触危険物質（｢10. 安定性及び反応性」参照）から離しておく。

衛生対策: 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じんを発生させないこと！
本製品を吸入してはならない。
ヒトへのあらゆるばく露を避けること。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。

汚染された保護具、作業衣等を処分する際は、周辺環境を汚染することがないように適切な方法を用いること。
取り扱い後は、顔、手、および露出した皮膚をすべてよく洗うこと。

保管

安全な保管条件: 保管場所には、必要な採光または照明および換気の設備を設ける。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。
施錠して保管すること。
食品、飲料水、動物の餌から離しておく。
積荷又はパレット間に隙間をあけること。
冷所に保管。
暗所に保管すること。
換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
排水管や下水管へのアクセスのない場所で貯蔵する。
「10. 安定性及び反応性」を参照。
乾燥した場所で密閉容器に保管すること。

安全な容器包装材料: 情報なし

## 8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別ばく露限界/許容濃度

| 成分 | CAS 番号 | 指標 (ばく露形態) | 管理濃度 / 許容濃度 | 出典 |
|---|---|---|---|---|
| 結晶質シリカ | 14808-60-7 | OEL-C (吸入性粉じん) | 0.03 mg/m$^3$ | 日本産業衛生学会 (許容濃度) |
| | | TWA (呼吸濃度) | 0.025 mg/m$^3$ | ACGIH |

| 製品 | 基準 | 規制濃度 | 規制法規等 |
|---|---|---|---|
| 第３種粉じん-総粉じん | 許容濃度 | 8 mg/m$^3$ | 日本産業衛生学会 |
| 第３種粉じん-吸入性粉じん | 許容濃度 | 2 mg/m$^3$ | 日本産業衛生学会 |

設備対策: 密閉された装置、機器または捕集装置を備えた局所排気装置および/または全体換気装置を使用する。
取扱場所に、手洗い設備、洗身洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具: 呼吸用保護具は、適切な保護具を使用する。
緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器(SCBA)を着用する。

手の保護具: 手の保護具は、適切な保護具を使用する。
不浸透性保護手袋

眼の保護具: 眼の保護具は、適切な保護具を使用する。
安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具:
個人用保護具(PPE)は、適切な保護具を使用する。
保護衣(長袖作業衣)

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態: 粉末
色: 淡褐色
臭い: データなし
融点/凝固点: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲 :
データなし

可燃性： データなし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界
　爆発範囲の上限 / 可燃上限値:
　　データなし
　爆発範囲の下限 / 可燃下限値:
　　200 mg/l
引火点: データなし
分解温度: データなし
pH: 6.0 (20%水懸濁液、20 ℃)
蒸発速度: データなし
自然発火温度: データなし
粘度
　動粘度(動粘性率) : データなし
溶解度
　水溶性： データなし
　溶媒に対する溶解性：
　　データなし
n-オクタノール／水分配係数:
（log 値） データなし
蒸気圧: データなし
密度及び/又は相対密度
　比重: 0.22（見かけ比重）
　密度: データなし
　相対ガス密度: データなし
粒子特性
　粒子サイズ： データなし

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性: 通常の貯蔵･取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性: この製品の粉体は爆発性の粉じん雲を形成するおそれがある。
火災時に金属酸化物の粉じんが発生することがある。
熱、化学反応、摩擦、または打撃によって分解が始まり、急激な温度上昇と圧力上昇をもたらすおそれがある。
加熱されると分解して、容器の破裂に至るおそれがある。
加熱されると分解して、火災や爆発に至るおそれがある。
塩基、裸火、機械火花、電気火花、溶接火花、高温表面、摩擦熱、
静電気放電：火災や爆発のおそれ、加熱、機械的衝撃、酸化剤、
酸：火災、爆発、および有毒ガスの発生のおそれ
避けるべき条件: 裸火、機械火花、電気火花、溶接火花、加熱、高温表面、摩擦熱
静電気放電、機械的衝撃など
混触危険物質: 酸、酸化剤、塩基
危険有害な分解生成物:
一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素、すす、窒素酸化物、塩化水素、
塩素化合物、ケイ素化合物、ケイ酸、シアン化物類、シアン化水素
金属成分を含む微粒子が発生するおそれがある。

## 11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報:
経口、吸入、経皮、眼

急性毒性
製品：
急性毒性（経口）:$LD_{50}$（ラット）: 1490 mg/kg
標的臓器: 神経系
急性毒性（吸入）:備考:データなし
急性毒性（経皮）:$LD_{50}$（ラット）: > 5000 mg/kg
標的臓器: 特定標的臓器は認められない。
成分:
シペルメトリン:
急性毒性（吸入）:$LC_{50}$（ラット）: > 254 mg/$m^3$
ばく露時間: 4 h
備考: 粉じん、ミストおよび煙
皮膚腐食性/刺激性
製品:
種: ウサギ
結果 :刺激性なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
製品:
種: ウサギ
結果: 中等度の刺激性あり
呼吸器感作性又は皮膚感作性
製品:
試験タイプ: 皮膚感作性
種: モルモット
方法: ビューラー法
結果: 感作性なし
生殖細胞変異原性
製品:
*in vitro* での遺伝毒性:
備考: データなし
*in vivo*での遺伝毒性:
備考: データなし
成分:
結晶質シリカ:
*in vitro* での遺伝毒性:
試験タイプ: 染色体異常試験
結果: 陰性
試験タイプ: 遺伝子突然変異試験
テストシステム: 哺乳動物培養細胞
結果: 陽性
試験タイプ: 遺伝子突然変異試験
テストシステム: 哺乳動物培養細胞
結果: 陰性
試験タイプ: 小核試験
テストシステム: 哺乳動物培養細胞
結果: 陽性
試験タイプ: 小核試験
テストシステム: 哺乳動物培養細胞
結果: 陰性
試験タイプ: 姉妹染色分体交換試験
結果: 陰性

*in vivo*での遺伝毒性:
試験タイプ: 遺伝子突然変異試験
種: ラット
投与経路: 気管内
結果: 陽性
試験タイプ: 遺伝子突然変異試験
種: マウス
結果: 陰性
試験タイプ: 染色体異常試験
種: ヒト
結果: 陽性
試験タイプ: 姉妹染色分体交換試験
種: ヒト
結果: 陽性
試験タイプ: 小核試験
種: マウス
細胞型: 骨髄
投与経路: 腹腔内
結果: 陰性

シペルメトリン:
*in vitro* での遺伝毒性:
試験タイプ: Ames 試験
テストシステム: ネズミチフス菌および大腸菌
結果: 陰性
試験タイプ: 染色体異常試験
テストシステム: チャイニーズハムスター細胞
結果: 陰性
試験タイプ: 遺伝子修復試験
テストシステム: 枯草菌
結果: 陰性

*in vivo*での遺伝毒性:
試験タイプ: 染色体異常試験
種: ハムスター
細胞型: 骨髄
投与経路: 経口
結果: 陰性
試験タイプ: 優性致死試験
種: マウス
投与経路: 経口
結果: 陰性

発がん性
製品: 備考:データなし
成分:
結晶質シリカ: 種:ラット
投与経路:吸入
方法:発がん性試験
結果:発がん性あり
標的臓器:肺

種:マウス
投与経路:吸入
方法:発がん性試験
結果:発がん性あり
標的臓器:肺
IARC: 1
ACGIH: A2
日本産業衛生学会: 1
NTP: K

シペルメトリン: 種:ラット
投与経路:混餌
方法:発がん性試験
結果:発がん性なし
種:マウス
投与経路:混餌
方法:発がん性試験
結果:発がん性なし

生殖毒性

製品:

妊娠に対する影響 :
備考: データなし

胎児の発育への影響:
備考: データなし

成分:

シペルメトリン:

妊娠に対する影響:
種: ラット
投与経路: 混餌
方法: 繁殖毒性試験
結果: 繁殖性に影響なし

胎児の発育への影響:
種: ウサギ
投与経路: 経口
方法: 催奇形性試験
結果: 催奇形性なし
種: ラット
投与経路: 経口
方法: 催奇形性試験
結果: 催奇形性なし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

急性毒性（「11.有害性情報」）を参照

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

製品:　備考:データなし

成分:

結晶質シリカ:　種:ヒト
投与経路:吸入
方法:疫学情報
標的臓器:呼吸器系, 免疫系, 腎臓
種:ラット
投与経路:吸入
方法:反復投与毒性試験
標的臓器:呼吸器系

鉱物質微粉: 種:ヒト
方法:疫学情報
標的臓器:肺
種:ラット
方法:1 年間慢性毒性試験
標的臓器:肺
種:ラット
方法:2 年間慢性毒性試験
標的臓器:肺
シペルメトリン: 種:ラット
投与経路:混餌
方法:90 日間反復投与毒性試験
標的臓器:特定標的臓器は認められない。
種:イヌ
投与経路:混餌
方法:90 日間反復投与毒性試験
標的臓器:特定標的臓器は認められない。
種:イヌ
投与経路:混餌
方法:2 年間慢性毒性試験
標的臓器:神経系
種:ラット
投与経路:混餌
方法:90 日間反復投与毒性試験
標的臓器:神経系
誤えん有害性
製品: データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性
製品:
魚毒性: $LC_{50}$ (コイ): 0.042 mg/l
ばく露時間: 96 hrs
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:
備考: データなし
藻類に対する毒性:
$ErC_{50}$ (緑藻): > 10 mg/l
ばく露時間: 24 - 72 hrs
NOECr (緑藻): 0.10 mg/l
ばく露時間: 24 - 72 hrs
魚毒性 (慢性毒性):
備考: データなし
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性):
備考: データなし
成分:
シペルメトリン:
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:
$EC_{50}$ (オオミジンコ): 0.0014 mg/l
ばく露時間: 48 hrs
その他生物に対する毒性:
蚕に長期間毒性がある。
ミツバチに対して影響がある。

残留性・分解性
生分解性:　備考: データなし
生体蓄積性　備考: データなし
土壌中の移動性　データなし
オゾン層への有害性
オゾン層破壊係数:　国際規制: UNEP - オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書のためのハンドブック
備考: リストに掲載なし
他の有害影響　データなし

## 13. 廃棄上の注意

廃棄方法:　国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)
国連番号 (UN number):　UN3077
国連輸送名 (Proper ship-ping name):環境有害物質、固体、n.o.s.（シペルメトリン混合物）
国連分類 (Class):　9
容器等級 (Packing group):　III
ラベル (Labels):　9

航空輸送(IATA-DGR)
UN/ID 番号 (UN/ID number):　UN3077
国連輸送名 (Proper ship-ping name):環境有害物質、固体、n.o.s.（シペルメトリン混合物）
国連分類 (Class):　9
容器等級 (Packing group):　III
ラベル (Labels):　Miscellaneous
梱包指示（貨物機） (Pack-ing instruction (cargo aircraft)):
956
梱包指示（旅客機） (Pack-ing instruction (passenger aircraft)):
956

海上輸送(IMDG-Code)
国連番号 (UN number):　UN3077
国連輸送名 (Proper ship-ping name):環境有害物質、固体、n.o.s.（シペルメトリン混合物）
国連分類 (Class):　9
容器等級 (Packing group):　III
ラベル (Labels):　9
EmS コード (EmS Code):　F-A, S-F
海洋汚染物質(該当・非該当) (Marine pollutant):
該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）
供給された状態の製品には非該当。

緊急時応急措置指針番号:　171

国内規制
国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策

備考: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
車輌、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

## 15. 適用法令

関連法規

消防法: 危険物、指定可燃物に該当しない。

労働安全衛生法: 製造等が禁止される有害物:
非該当
製造の許可を受けるべき有害物:
非該当
健康障害防止指針公表物質:
非該当
変異原性の認められた化学物質（既存化学物質):
非該当
変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質):
非該当
名称等を通知すべき危険物及び有害物:
法第 57 条の 2（施行令別表第 9):結晶質シリカ
名称等を表示すべき危険物及び有害物:
第 57 条（施行令第 18 条):結晶質シリカ
特定化学物質障害予防規則:
非該当
鉛中毒予防規則: 非該当
四アルキル鉛中毒予防規則:
非該当
有機溶剤中毒予防規則:
非該当
労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物):
非該当

毒物及び劇物取締法:
劇物:有機シアン化合物及びこれを含有する製剤（シペルメトリン）

化学物質排出把握管理促進法:
第 1 種指定化学物質
ジメチル（1-フェニルエチル）ベンゼン
第 2 種指定化学物質
アルファ-シアノ-3-フェノキシベンジル=3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート（シペルメトリン）

高圧ガス保安法: 非該当

火薬類取締法: 非該当

船舶安全法: 危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 有害性物質

航空法: 施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: その他の有害物

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律:
個品輸送:海洋汚染物質

水質汚濁防止法： 指定物質（法第２条４項、施行令第３条の３）
有害物質（法第２条、施行令第２条、排水基準を定める省令第１条）（シアン化合物）
下水道法： 水質基準物質（法第１２条の２第２項、施行令第９条の４）（シアン化合物）
土壌汚染対策法： 特定有害物質（法第２条第１項、施行令第１条）（シアン化合物）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律：
特別管理産業廃棄物
農薬取締法： 農薬

## 16. その他の情報

参考文献：安全データシート（SDS）「アグロスリン水和剤」（住友化学株式会社 2022 年 12 月 1 日版）

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。